

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人介護事業部の理念及び事業所理念に沿い、サービスを提供している。	職員から理念の要望を聞く機会を設けてはいないが介護事業部からの理念に沿って、また、地域や利用者のニーズに合わせ作成している。阿賀町では独居世帯、高齢者世帯が多く介護が必要な方は施設入所に繋がることが多いため、事業所の理念を「阿賀町地域において毎日を穏やかに、安心して生活できるように」を理念にサービスを展開し、職員へは年度初めや会議で周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症拡大防止の為、地域との交流は自粛している。また、猛暑や気候の変動により外出を控えており、日常的な交流や地域行事の参加も実施していない。	コロナの影響により、現在において地域社会と繋がるサービスが現状できていない状況である。今後の予定として利用者と事業所の情報誌を回覧板に挟み地域に回覧する予定である。地域活動の情報は区長から情報ももらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でお便りを配布したり、施設での様子や取り組みをお伝えしているが、地域の方に向けて理解や支援の方法について活かす機会を持っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症の拡大状況を確認しながら、運営推進会議を2カ月に1回開催した。会議を開催できない時は、報告内容を書類にて送付し、意見・要望等は電話等で受付している。	コロナ感染で中止した際は書面開催に切り替え時期や状況を見ながら対面と書面で開催し2ヶ月に1回開催している。今は入居者の方の参加者はおられない。担当の地域包括支援センターは行政直営の地域包括支援センターであり、事業所から報告にする事故やヒヤリはっとの件について意見やアドバイスをもらい、サービスの改善に繋がっている。地域の方からは防災訓練への参加の呼びかけを行なってくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染症発生以降、意見交換を行う機会がなくなっている。不定期だが、行政の窓口や地域包括支援センターの担当職員と意見交換は行っている。	事業所の実情や取り組みは運営推進会議で伝えている。行政主体の研修会には積極的に参加し情報を得る機会としている。コロナや感染症等が発生した際は阿賀町役場の介護保険係や地域包括支援センターに連絡し指示や相談を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関等の施錠は行っていない。職員も行動制限や身体拘束等に関して施設内研修を受け業務に当たっている。現状において身体拘束等は行っていない。	今期は施設全体での話し合いの場を設けることはできなかったが一人ひとりイーケアラボを使って学ぶ機会を設けている。感想を入れている職員と入力されていない職員がいる。玄関の施錠は日中は開けており夜間は防犯上の兼ね合いもあるため施錠している。事業所の身体拘束の取組方針、リスクについては契約時に本人、家族に伝えている。	一人ひとりが身体拘束について学ぶ機会を設けているが事業所全体での話し合う機会がない現状が窺える。自分達のサービスを振り返る場を設け、職員間で話し合いの場を持つ事で事業所サービスの振り返りを行い、さらに質の高いサービスに繋がる取り組みを期待したい。どの研修においても研修報告に記載する職員と記載しない職員がいるため研修を受けてどう感じたか。研修記録に残すことでその職員がどのように思ったのか感じたのか確認できるよう、全ての研修において記録を必ず残す取り組みも期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で、研修や身体拘束適正化委員会等で話し合い、虐待防止についての理解を深めるよう努めている。	高齢者虐待防止関連法を学ぶ機会としてイーケアラボと身体拘束適正化委員会で検討する機会を設けている。職員の疲労やストレスを溜め込まないために希望休や、有給を取れるようシフト調整をしてくれたり、法人の部長からも定期的に職員面談を実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、内部研修で定期的に学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書などを用いてご本人、家族が納得、理解して頂けるよう十分に説明を行い契約の締結を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には日常的な会話を通じてご意見やご要望を伺っている。ご家族は、お電話や受診対応の際にお話を伺い、面会のご希望に沿う等、ご意見の反映に努めている。	利用者との日常的な会話の内容を他の職員と共有し対応方法を検討している。利用者からの要望として外出、外食等の要望が多く聞かれるが感染症の状況もあるため、食事に関しては誕生日会を開催したり、おやつに反映したりして工夫している。家族が要望等を表せる機会として、利用者の病院受診の際や生活用品を持参してもらう際に電話等で機会を設け聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、職員が意見できる環境を整えている。職員が意見を述べる議題を設け、意見が言いやすい環境となるよう心掛けている。また、事業所で解決できない事は、管理者会議などで上司に意見を上げている。	会議は報告で終わることがないように意見が言える機会を設けている。施設長は普段から挨拶だけでなくプラスαを加えコミュニケーションを職員と図っていることや年1回は職員と面談する機会を設けており、業務に関すること、悩みや人間関係等相談できる時間を設けている。利用者との日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを取り入れている。特に利用者の状態変化でエアマットを導入したりするなどサービス反映に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者会議にて職員が働きやすい環境作りの為、職員からの意見を下に、就業規則や内規についての改善、変更を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、認知症や倫理・法令順守等様々な研修をオンライン形式で開催した。また、個々の力量に応じ、苦手分野の克服を図る取り組みや、外部研修に参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症拡大防止のため、同業者との交流する機会が持てていないが、電話での意見交換や相談等を行い、相互のサービス内容の確認や意見交換を行った。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居にあたり、不安に思っている事や心配な事などを十分に傾聴し、安心、納得してもらえるまで何度も説明するよう心掛けている。また、家族との繋がりの継続に向けて働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時及び入居後も、グループホームでの生活などの不安や要望はできる限りお聞きし、安心して頂けるよう説明を行っている。施設での生活の様子なども定期的に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、ご本人様、ご家族様への利用説明において、状況等の確認、把握をしながら必要に応じて、他サービスの説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという認識を共有しており、習わしや、郷土料理等を通じて入居者様の知識や経験を学ばして頂いている。入居者様同士の支え合いを阻害しないよう皆で暮らすことの重要性を認識している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居者様の生活の様子などをお便りを送り報告している。短時間だが面会を再開し、近隣の家族の方には出来るだけ受診の付き添いなどをお願いし、関わりを絶やさないように心掛けている。	家族との情報交換は病院に同行した際や生活用品を持ってきた際に伝えたり、「グループホームえんなか便り」を毎月便りとして渡し事業所内での様子を写真を入れながら伝えている。家族から運動させて欲しいや髪型の要望があった際は利用者と相談しながら実施している。入居してからも家族が本人と関われるよう、今は面談できる機会や家族から必要な物を利用者を持参してもらうなど、会う機会を設けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や受診の機会に、ご家族から馴染みの人や場所についての情報をご本人へお伝えいただいている。また、携帯電話をご持参されている方は、適宜通話していただき、馴染みに人や場所との関係が続くよう対応している。また、適宜、地域の床屋さんや歯科医の訪問があり、馴染みのある方との関係が継続できている。	入居前に本人、家族から聞いて今までの人間関係や社会との繋がりを確認している。入居前に確認できない際は、利用してからの言動等を聞きながら把握に努めている。敷地内や近隣を散歩している際には、近所の方や地域の方から声をかけてもらうなど馴染んでいる人との関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の生活リズムと、入居者様同士の相性を考慮しながら、出来る限り同じ場所、同じ空間で生活して頂けるようにしている。また、入居者様同志が助け合い、支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用や契約が終了しても関係を断ち切らず、町内でお会いした時は、現在の状況を聞いたり、継続的な付き合いを大切にしよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居前の面接等で、ご本人やご家族から思いや暮らしについての希望を聞き、実現できるよう勤めている。出来る限りご本人様の思いや希望を聴き、個別サービスに反映している。	入居前に本人、家族から聞いて意向の把握に努めている。利用してからも引き続き言動等を聞きながら実現できるようサービスに反映している。把握が困難な場合はサービスを行いながら見極め対処し工夫している。把握した内容については申し送りノートを活用し職員間で共有しサービスの統一に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、これまでのサービス利用の経過等をご本人、又はご家族に聞き把握に努めている。	一人ひとりの利用者についてアセスメントシートを活用し、本人、家族から情報収集を行なっている。家族が本人の暮らしぶりがあり分らない場合はケアマネージャーや入居前に利用していたサービスがあれば、そこから情報収集を行なっている。入居後得た情報についてはアセスメントシートやフェイスシートに追記し職員間で共有しケア方法を検討するための情報としている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が把握できるように、毎日の申し送りや会議にて入居者様のことについて話し合う機会を作り、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に意見や意向の確認、受診時に主治医や面会時や電話にてご家族様から意見を聞き、また日頃から関わる事が多い職員からも意見を聞き、介護計画を作成するように心掛けている。	話し合いの場を設けることは中々できていないが、日頃の利用者の様子や職員が記入している現状報告書から現状を把握し、プランに反映させている。家族からは受診対応で来所した時や電話で要望を確認し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施と結果、気づきや工夫を個別の記録や申し送りに記入している。情報を共有しながら実践したり、介護計画、サービスの見直し、変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々々の要望に応じて、職員間で話し合ったり、主治医や看護師に相談や意見を頂き、柔軟な対応ができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、速やかに協力、相談できるように地域資源の把握や、いざという時に相談できる体制を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族が希望される医院や馴染みの医院を優先とし、かかりつけ医と事業所の連携を強化し、適正に対応出来るように心掛けている。	家族の協力が得られる方は、受診対応は家族が行い、家族が対応できない方は、職員が受診対応している。利用者一人ひとり健康ノートがあり、かかりつけ医と事業所が連携して利用者の健康状態がすべて記入されており、病院受診時は持参し必要な医療を適切に受けることができている。健康ノートがあることで家族も職員も利用者の健康状態を把握し共有することができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時各ユニットで看護職員を配置しているため、入居者様の健康管理や特変時の対応、指示をお願いできる体制が構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年は、面会制限の為、入院中は面会に行く事が出来なかった。直接は難しかったが、看護師から病状の説明等を受けるようにしている。スムーズに退院、受け入れが出来るように、メディカルソーシャルワーカー等との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員配置により、ご家族様に入居者様の重度化及び終末期についての意見を頂いている。また、今後重度化した場合の相談体制についても話し合いを行い、意見や考えの共有に努めている。	入居時に、利用者が入居後に重度化した場合も継続して生活が送れるよう支援していけることを説明している。事業所では看取りは行っていないため、終末期について早い段階で家族と話し合い、かかりつけ医と連携し支援していけるよう取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を配置し、緊急時の対応や連絡方法など、冷静に対応できるよう適宜打ち合わせを行い、実践している。	常勤看護師がいるため、利用者の日々の健康管理が行われている。急変時や緊急時の研修は行われていないが、利用者の状態変化にすぐ対応できるようユニット職員間で話し合いが適切に行われている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、地域の方の協力を区長にお願いしている。年2回の避難訓練を実施している。区長へ相談し、今後は地域での防災訓練への参加も検討している。	非常災害対応マニュアルがあり、職員はマニュアルを基に災害時の対応ができるよう体制が整っている。消防署員の方から参加してもらい、年2回、火災時の避難訓練と消防訓練が行われている。	今後、地元区長の協力を仰ぎながら地域との防災訓練が行われることを期待したい。また、火災時だけではなく、地震や水害時の訓練も行い、備蓄を整理し誰でも保管場所がわかるよう設置することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や申し送りにて、入居者様が気持ち良く生活していただけるような声かけや対応について、話し合いを行っている。	プライバシーについても、イーケアラボにて研修が行われている。申し送りで気になることがあれば、その都度、話し合いが行われ、利用者本人の気持ちを尊重したケアに反映させている。利用者個々の生活リズムに合わせてケアするよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるように、職員は傾聴に気をつけており、職員の都合などは押し付けないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、ご本人の意思や希望を確認しながら臨機応変に対応できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望を確認し、訪問理容の方に来て頂いている。日常の衣類は、なるべくご本人に選んでいただくが、汚染した衣服を着用されないことがないよう、管理の支援を行っている。日常の整髪は、なるべくご本人に行っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いなど、入居者様1人1人に合わせて提供している。食事の準備や片付けなども、出来るところは出来るだけ手伝って頂いている。	利用者の状態に応じて、可能な方には食事の片付けやテーブル拭きを手伝ってもらっている。食事は味噌汁に季節の野菜を入れるなど、工夫しながら献立に沿ったものを提供している。また、利用者の誕生日には、利用者の好きなおやつを提供したり職員の手作りのおやつを提供するなど、食事以外でも利用者に楽しんでもらえる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業者をお願いしているので、ご利用者の状態に応じた食事内容や食事形態、栄養バランス、塩分などバランスよく提供している。1日の水分量や回数などは職員間で検討し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず歯磨きの声掛けを行っている。居室でやる方、ホール内の洗面台でやる方など個々に合わせて実施している。歯磨きが不十分な方には介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ自力で排泄して頂けるよう早めに声を掛けたり、定時トイレ誘導など1人ひとりに合わせて支援し、排泄パターンを把握するように心掛けている。	入居後に利用者の様子を観察しながらトイレへの声掛けを行い排泄記録に残し、排泄パターンを把握しながら、状況に応じた対応が行えるよう努めている。利用者の気持ちに配慮し、状態変化があった方も夜間はオムツ対応でも日中はトイレ誘導し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に乳製品などの摂取、体操等に取り組んでおり、出来るだけ便秘のないように排泄パターンの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間などの設定はされているが、入居者様の希望時間は、できるだけ入居者様に合わせて入浴の提供を行っている。また、季節に合わせ、菖蒲湯とゆず湯を提供し、楽しんでいただけるようにしている。	事業所では特浴が設置されており、重度化しても清潔保持が保て状態変化が見られても安心して入浴することができる。入浴日や時間は決まっているものの、利用者の体調や気分によって入る順番を変更したり、季節に合わせ菖蒲湯やゆず湯で入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、その時の状況や体調、習慣などで休みたい時には好きな時間に、自由に休息できるよう環境の整備、又は支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護職員が一括して行っているが、薬の目的や副作用についてを職員間で情報を共有できるように日々看護職員との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態やご希望に応じ、食事の片付けや洗濯物たたみ等を担当してやって頂いている。また、日記を書く等おひとりのお時間を大切にされる方にも配慮をしている。気分転換は、レクリエーションや散歩、ユニット間の交流等で測って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症拡大防止のため、不特定多数の方が集まるスーパーへの出入りを控え、買い物は自粛している。きょうだいのお宅や自宅への外出はご家族や身内の方にご協力いただいている。天候に応じ、希望時は屋外への散歩もしていただいている。	今まで事業所では感染症防止のため年間行事や外出は控えており、地域との交流も自粛していた。感染状況に応じて家族との外出や散歩は継続して行ってきた。今後は散歩の頻度を増やしていく計画がされており、また、ドライブなど少しずつ外出する機会を増やしていけるよう支援していく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望、能力、ご家族の同意を得たうえで、お金の所持や使えるよう支援している。その他は預かり金として施設側が管理して必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族、親戚等に電話を希望された場合は、本人に電話を掛けて頂けるよう支援している。ご家族などからの手紙は、ご本人にお渡しし、お返事を書かれるかご意向を確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには収納スペースが少ないが、不快に思われぬよう片付けを心掛けている。また、貼り絵等を飾り、照明や温度調整を行い、季節感を感じながら心地よく過ごしていただけるよう心掛けている。トイレや浴室は、適宜掃除を行い、気持ちよく使っていたできるようにしている。	利用者が食事をする場所でもあるホールは、明るい雰囲気であり、ホールからすぐ近くのトイレには、トイレのマークがなく居室と同様の扉でトイレだとは主張せず、居心地よくホールで過ごすことができるよう配慮されている。また、事業所内では猫や犬と一緒に生活しているが、清潔感があり清掃が大変行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング、リビングなどの区切りが無いため、ホール内の席は、仲の良い方と会話出来たり、TVが好きな方は見やすい席にするなどの配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時など使い慣れた物や思い出の物も持ってきていただき、居心地良く過ごせるようにご家族に相談している。また、入居者様と物の置く位置を相談したり、適宜職員と一緒に整理整頓や衣替えを行っていただいている。	入居時に家族や利用者本人と使い慣れた物など持参されるか確認し、居室に配置する際は利用者とは話し合いながら設置している。日頃、居室掃除や片付けなども利用者に声掛けし、できる方とは一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した方や車いすの方、歩行の介助がいる方など、どの入居者様でも生活出来るように安全な環境作りを心掛けている。		